t 30年度 育	<u>学校評価 計画表</u> 目 標	一人ひとりの障害と発達をふまえ、自己の可能性を充分に伸ばすとともに、社会の一員として「氵	青く 明る	るく たくましく」生きる人間形成に努める。	総合評価
校 運	営 の 方 針	○「いきいきとした幼児・児童・生徒」の育成を図るため授業改善に取り組み、将来を見通したす	教育活動を	を展開する。	
年度0		○ 幼児・児童・生徒の願いや特性を大切にし、学部間の連携を図り一貫した指導に努める。 本年度重点目標		具体的目標	
fice365 <i>0</i> 深い活用1	) 研修を実施し、よ こ繋がるよう努めた			<u>週間における公開授業や研究授業を通して、授業力の向上をはかる。</u> 陽研修や積極的な使用により、活用能力を高める。	_
小 盟 授 :	業 4、定 善   授 業 改	理療教育の研究推進と臨床宝習の充宝	教育課程	の見直しに伴った、指導内容の研修を行う。	В
こ取り組る	ひ			実習および職場実習、進路にかかわる学習会等を企画・実施する。関係諸機関へ本校の理解を深める。 校と連携し、学習や行事での交流・共同学習を行う。	
関との連携	隽を深め、進路開拓 ま中心に取り組ん	運動習慣の定着と健康教育・食育の推進  広災教育の推進	学校生活	全般を通し、積極的に運動や食文化に親しむ機会をつくる。 いての関心や知識を高め、危機感を持って災害に対応できる指導を行う。	
. 学校見5	学会等啓発活動に生	防 灰 教 月 の 推 進   特 別 支 援 教 育 に 関 す る セ ン タ ー 的 機 能 の 充 実	視覚支援	<u>いての関心や知識を高め、危機感を持つて災害に対応できる指導を行う。</u> 室の機能を十分に発揮し、センター的役割につとめる。	_
も巻き込み	み全教職員で取り組した取組が必要。	地域とともにある学校づくりの推進に向けての実行委員会の確立合理的配慮に基づく効果的な支援の提供	学校 見学	室の機能を十分に発揮し、センター的役割につとめる。 を通し、本校や視覚障害者の理解を深める取組の基礎を築く。 理的配慮が提供されるよう関係機関との連携を深める。	
<u>。                                    </u>	具体的目標		自己評価		学校関係者記
<u> </u>	(重点項目) 教育課程等の作成	│ │小 学 校 新 学 習 指 導 要 領 の 導 入 に 伴 い 、 対 応 し た 小 学 部 単 障 ・ 重 複 の 教 育 課 程 の 検 討 及 び	<u>結果</u> A	┃ ┃特別の教科道徳について、重複では学級活動で取組を行い、┃小学部3年生以上の授業時間数が1時間増え	・今年度新し
•		作成を行う。		指導や評価内容について検討しながら進めることができた。│ることを受け、重複の授業数について検討を	域の方に評議
	新字習指導要領の  研修	小学校・中学校・特別支援学校 (幼稚部・小学部・中学部) の新学習指導要領の研修を  深め、学部への周知を図る。	В	新学習指導要領について、研修会に参加し、学部・各教科間 進めていく。新学習指導要領について、高等で研修内容の共通確認を行った。	なっていただ   ・文化祭にお
Ş	研修の充実	専門性を高めるための各種研修会、公開授業を組織的、計画的に実施する。研究集録を	В	各種研修会を実施。公開授業は3年目に入り今後も継続する。平素の授業で指導略案を書く機会を増やし、	は、生徒が大
	育友会	<u>│作成する。研修用ライブラリーの充実と活用の推進を図る。</u> │育友会活動を補佐し、関係行事の調整・計画・立案に協力する。	A	┃研究集録を作成。研修ライブラリーは、資料の一覧表を作成┃教員相互の授業力の向上を図る。指導案のひ ┃し学期ごとに更新内容を広報した。近盲P会計監査校、体験┃な形を提示する。近盲P会計監査校として保	じめに熱心に  している。各
			^	発表校としての役割を果たせた。   護者を補佐し各部署との連携を深める。	の出し物が大
指 導	キャリア教育の実	生徒・保護者の進路希望を踏まえた上でひとりひとりに望ましい勤労観を身に付け  させ将来の希望が実現できるように指導する。	Α	進路体験学習や職場実習・見学を通して、社会や職業について 職場実習等については、生徒の考えを把握し  の理解を深めることができ自分が将来どのように社会に参画 ニーズに合ったものにしていこうとする形を	
		県内にある5カ所の障害者就業・生活支援センターと連携を図り、各地域における視覚	В	していくかを考えさせる指導ができた。センターとの連携は一継続していく。連携は、訪問の回数を増し、情	生徒が中心で
指導	<u>連携</u> 生徒指導	障害者に対して必要な助言等を行う。 あいさつや言葉づかいなど基本的生活習慣や態度を指導する。規範意識を身につけさせ、問題行	В	実施したが、さらに一歩進めて密にする取組が必要である。 報交換を密にしていこうと考える。 問題行動による特別指導はなく、今後も未然防止に努める。 言葉づかいや生活態度の指導に重点を置き、	」練習できてい わかすぎの劇
. 10 <del>'7</del>		動の早期発見・早期対応・未然防止に努める。		│また、文化祭では幼児児童生徒が活躍する姿を来校者に見て│情報共有と指導の一貫性を保つ。生徒数減少	普段の中身を
	生徒会活動	生徒自らの企画・運営により自主性を養い、他者との協調性を身につける。また生徒が活躍できる場をつくり、自己肯定感や自尊心につなげる。	Α	」もらうことができた。	小学並の働き
体 育	校内美化	日々の清掃分担や大掃除を計画し、生徒の清掃習慣の育成と衛生環境の整備を行う。	Α	全職員の協力を得て校内の環境を清潔に保つことができたと、職員自ら清清活動に取り組み生徒の美化意識ともに、美化意識を高めることができた。遊具中庭安全点検を高めるよう努力を継続する。世の中で起こ	に合わせた
	校内安全	│ │ 火災・地震避難訓練を実施し、災害発生時の対応を再確認するとともに防災への意識を高める。		1により  旅具寺の  女全を帷談できた。女全点種目の設定により つ(いる災害の情報を収集し防災教育に生か	バックの絵も  くきれいで良
			Α	校内の安全チェックを集約し補修等に活かせた。 せるよう避難訓練の内容等を検討する。	た。ただ、全
活動	自活講座の充実	  自立活動講座の資料について、点字資料と音声資料を充実させる。	Α	自活講座については、福祉機器展の内容を検討し、新たな業 福祉機器展を始め、自活講座の内容を充実さ	」見 学 者 で も タ 」よ う に コ メ ン
	情報共有化の充宝	│ │視機能検査の方法や自立活動講座の内容などについて、委員会内研修を充実させ、情報の共有化	В	□ 者と連携を図りながら開催することができた。情報の共有化してなよう検討を行う。情報の共有化について、 □ については、視機能検査の検査法知識について委員会内研修 視機能検査の方法等の研修や自活研修を継続	工夫が欲しか学校見学・位
4// <del></del>		を図るとともに、実際の分担を進める		を行ったことで知識・技術の共有化に努めた。   して行う。	については.
教育	人権教育の充実	各学部、学年における目標・年間指導計画を作成し、学校生活全体を通して、担任を中心にクラ  スに応じた人権教育に取組む。資料の提供や紹介を積極的に進める。	В	児童、生徒の人権メッセージを全学級に掲示した。高人教各クラスでの取組について、より充実した の会議等で、高等学校や他の特別支援校と人的交流を図り、内容になるよう資料等の提示を引き続き行	としては、l  組を行えてl
	人権啓発を推進	校内の研修会(生徒対象・職員対象)を企画していく。	Α	福 祉 機 器 展 や 学 校 見 学 会 等 の 紹 介 な ど 啓 発 を 行 っ た 。 学 校  う 。 研 修 会 の 内 容 を 充 実 さ せ る 。 さ ま ざ ま	思える。 来 🕏
		研究会や研修会の情報を委員会内で共有していき、校内の人権啓発に活用していく。		見学会への参加や「Freedom」のゴシック体表記など成果がな人権について考える機会を提案する。	│年 目 で 総 括 ( 」聞 い て い る フ
教 育	ICT機器の情報収集と発信	研修や他校との情報交換を通して機器に関する情報収集を行い、機器更新の準備や地域の方への   発信を行う。	В	教員対象の全体研修やワンポイント講座を実施した。奈良県 教育活動や校務に必要とされる情報を収集  特別支援学校メディア教育研究会においては、他校との情報  し、発信していけるように努める。	非良い総括を続けて欲しし
	水未と元后			交換を行い、新たなシステムの導入に備えた。また、学校見 また、引き続き、ホームページを充実させ、	域との交流し
	ホームページの管	│ │CMSサイトの構成を整え、内容を充実させることで、盲学校の啓発に努める。	Δ	_ 学体験会では地域の方に視覚障害機器について紹介した。	て、学校へき
	理理	OWO サイトの情况を並ん、内容を元矢でとることで、首手収め古光に方のも。		掲載も充実してきている。ホームページを閲覧し、学校見学	地域へ出向し
				体験会等の学校行事に参加していただけた地域の方もみられ  た。	くの必要でしか。地域の多
	読書の啓発	児童・生徒のニーズに合ったメディアで課題図書を提供し、新しい本の紹介を適宜行うことによ	Α	児童・生徒のニーズに合ったメディアで課題図書を提供し、古い本の廃棄と書架の整理を継続していく。	6回ほどある
	館内整備	り、読書啓発に努める。  古い図書の廃棄を進める。また、書架の整理を行い、利用しやすい環境整備を行う。	В	」新しい本の紹介を行うことができた。古い墨字本、点字本、 「カセットテープの廃棄を進めた。墨字本を対象者別にまとめ」	見学としてでいるので参加し
<b>堪</b> 相	情報の収集及び	  特別支援教育や視覚障害教育に関する情報を収集し、盲学校のあり方や役割等を検討する。これ	В	て配列した。書架の整理は今後も継続していく。   特別支援教育の動向や全国の視覚特別支援学校(盲学校)の さらに情報収集を進め、視覚障害教育の充実	lしい。 HP3
構 想 支 援	課題・論点の整理	までの議論や資料をふまえ、視覚障害教育についての課題・論点等を整理する。		取組等についての情報収集を進めた。 に向けた課題・論点の整理に努める。	報告など行
	ビジョン発信に向	視覚障害教育に携わる教員に求められる専門性の具体化と維持・継承の方法等について検討する  機会を設ける。地域と共にある盲学校を目指し、その魅力を含めたビジョンを数年後に広く発信	В	盲学校検討委員会を3回開催し、各学部・分掌等の取組を地 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制域とのつながりの観点から振り返り、地域と共にある学校づ 度)の設置・運営に向けた検討・準備を段階	て 何 を 行 っ ;   よ く 分 か る ;
+ 12 <b>-</b>		できるように検討を進める		くりについての検討を行った。	れからの予
支援 室		乳幼児や高校以上の視覚障害者の実態把握をすすめ、教育支援の充実に努める。 新設弱視学級の支援、弱視学級卒業年度の児童・生徒への進路情報の充実に努める。	В	主要眼科や保健センター障害福祉センターとの連携を訪問活高等学校の特別支援教育コーディネーターや 動や保健師研修会を通じてすすめることができた。奈視研を民生委員を対象とした研修会等を実施し、高	一緒に行事
	他機関との連携	眼科や乳幼児の医療機関、保健センター、高校や障害福祉センター、視覚障害者の会との連携を	В	¬中心に新設弱視学級との連携を進めた。高等学校への啓発活 校生以上の視覚障害者への進路の情報提供や	できること
呆 健	歯科指導の充実	進める。  養護教諭による歯磨き指導や幼小学部の保護者対象に研修会を実施する。全校生徒に食後の歯磨  きを呼びかけ、習慣化させる。歯科検診の結果を基に事後指導を徹底する。	В	各学部や各部署において口腔衛生に関して実態に応じて取り歯科医への受診率がまだ低いため、継続して	」と 思 う 。 障 ┃教 育 な ど 障
_	歯科指導の充実虫歯歯周病予防	きを呼びかけ、習慣化させる。歯科検診の結果を基に事後指導を徹底する。  各学部の実態に応じて訓練を実施し、緊急時の対応について確認するとともに、教員間の共通理	A	組んだ。食後の歯磨きは全校生徒に習慣付いてきている。   受診を勧めていく必要がある。今後もいろい  各学部の実態に応じて場面を設定し、緊急時の対応について   ろな場面を想定し、対応の訓練をしていくこ	一対する理解
	実	解を図る。		確認することができた。  とが必要である。	の諸団体と
舎	舎生指導の充実	個々に合わせた身辺自立を目指し、舎生の見え方に応じた生活動作の指導を行い生活力を高めて	В	学部とも連携し、生活にかかわる部分を教諭の指示のもと指   宿直勤務との調整が必要になるが引き続き調   導員と取組を進めることが出来た。   整をしながら更に進めていく。	し、横のつをうまく利
		ろう学校寄宿舎と共同の地震避難訓練や火災避難訓練等を実施し、緊急時の対応について連携を	В	盲ろう寄宿舎と筒井寮の3者で地震を想定した合同の避難訓  来年度は寄盲ろうとも舎生を交えて避難訓	ば、もっと
	食育の充実	進める。  郷土料理や食べ物の名前、食品に含まれる栄養について知らせ、食文化について理解を深めると	В	練 <u>をすることが出来た。  練を行うようにしていく。</u>  給食で、世界・日本各地の郷土料理を提供し、職員朝礼や掲 食に興味を持たせるための題材等の工夫、今	」な活動につ ていくよう
		共に、健康によい食事の仕方や望ましい食習慣を身につけさせる。		示物等で啓発ができた。楽しく食事をすることを通して、食 後の食生活に生かせるような実習、体験活動	る。進路先
			<u></u>	│事のマナーや食べ物の名前、栄養、郷土料理や奈良県の食文│等を繰り返し、継続して行っていくことが必 」化に触れさせることができた。生活の中で自分の健康のため│要である。	があると思
		楽しく食事をすることを通して、食事のマナーを身につけさせ、よりよい人間関係を築けるよう にする。	A	一の食事作りや望ましい食習慣の定着に向けた指導を今後も継 一続して行う必要がある。自分自身の健康のための食事のあり	実態を考慮に取り組ん
- W	// <b>/</b> // <b>/</b> /			方についてさらに意識を持たせることが課題である。	いたい。生
道導等	幼稚部、小学部の  教育の充実	視覚支援室と連携し、個別の教育相談において乳幼児、小学生を複数体制で対応することにより、  支援の充実と幼小学部の教育に啓発に努める。	В	支援室との連携や学校見学・体験学習を通して小学部へ4名 支援室連携し、つぼみ教室の回数を増やす等、 」の新入生を迎えることができた。若手教員が公開授業を担当 幼稚部教育の啓発に努める。授業見学週間を	に伴う、教
	X 11 - 2 / 12 / 12 / 12 / 12 / 12 / 12 /	幼児・児童の実態を把握し、日々の実践の充実と研修の充実を図り、視覚障害教育の専門生の継	Α	ヿし、点字と墨字を併用する児童の実践をまとめ、適宜発達の 設け、より具体的な場面での指導方法につい	持・継承に
	中学部、普通科教	<u>承をすすめる。</u>  生徒一人ひとりの実態を把握し、より個に応じた学習指導や生徒指導を行う。文化祭や中高部の	A	<u>  アセスメントを行うなど、研修の充実を図ることができた。   て互いに研修を深められるようにする。</u>   個々の学習指導、生活指導、自立活動等については、学校   ・生徒一人ひとりが充実した生活を送ってい	」問題があり」している。
	育の充実	行事を通して生徒間の交流を深め、自主的な活動を促す。 生徒や保護者の希望を聞き、社会自立に必要な歩行学習やPC学習、作業学習など、生徒個々の自		│ではケース会議や授業担当者会議、学部会で情報交換を行い│くために、学習面や生活面の課題を見つけさ	は、支援室
		立活動を支援する。	Α	支援ができた。家庭や寄宿舎や関係機関も今まで以上に連携 せ、より学校と家庭、関係機関との連携を取   を密にしていき指導していきたい。進路指導では、事前学習   っていくことが必要である。	のところで
		進路ガイダンスや進路講演会などの進路学習や施設見学、職場実習など、生徒の実態に応じた進 路指導を行い、卒業後の進路に結びつくように支援する。	В	や大学・施設訪問や職場軍習の後、報告会を行うことで、進 ・卒業後に向けて、進路学習や体験を通して、	1っていると思
		四川寺で川が、十末次の延町に帕ひラトみノに又抜りる。		路への意識を高めたり、進路の視野が広がる取組ができた。  社会人としてのルールについて学んでいく機     啓発については、児童生徒、保護者学校関係者への盲学校の  会を広げていくことが必要である。	いでいって欲
				紹介と入学検討の機会として6月に新しく授業見学を行っ・進路指導面では、一人ひとりの実態に合っ  た。今後も教育相談や視覚支援室との連携を密に行い啓発に  た進路先を見つめていきたい。積極的に進路	学校以外の
				取り組んでいきたい。   指導部関係会議や福祉的事業所・大学関係セ	指導できる
	保健理療科、専攻	  課題を抱える生徒への指導の充実		<u>  ミナー等に参加して見聞を広げていきたい。</u>   ガン治療や人工透析を行いながら学習する生徒へ多岐にわ   国試合格への取組では理療教科間の連携を	プして支援
	科理療科教育の充実	国家試験合格に向けた取組	A	」たる関係者と連携を持ちながら生徒指導を行えた。国試合格 密にしながら学習指導する。また、あはき実 【への取組は個々の生徒の課題に即した指導に工夫が必要であ 技指導では教員の臨床力の向上を目指し校内	環 境 が で き
			Α	」った。 あはき実技指導では基礎実技の定着に困難さがあり臨 ・校外研修を活用してその成果を生徒に還元	0.071-13.0
		進路を見据えた実技力の養成		│床 応 用 の 指 導 に 十 分 な 指 導 が 行 え な か っ た 。	